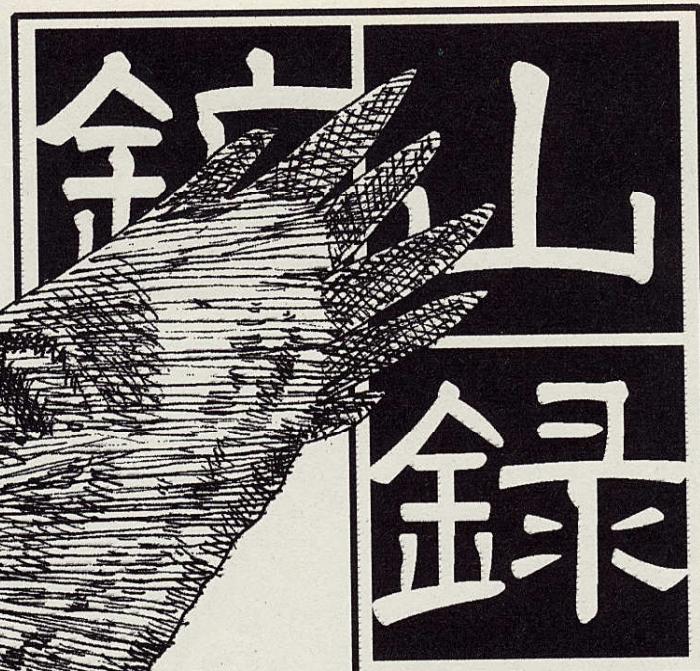


The Correspondence of Noboribetsu City Nature Center

登別市ネイチャーセンター ふおれすと鉱山
ニュースレター



のすり

Illustrated by Hiyama T.

Contents

Vol. 10
Oct. 2004

特集 シリーズインタビュー①大村朋子さん	
地域から見たふおれすと鉱山の効能.....	2
オープンから 28 ヶ月の活動報告.....	4
使える小ネタ集.....	5
リトル・ヴォイス～リレーエッセイ～	7
お知らせ&わいわいどれしひ.....	8



市民協働を進めてきたふおれすと鉱山。当の「地域」に住み、様々な市民活動を通してふおれすとを見つめてきた大村朋子さんに話を聞いた。

地域が見る れすと鉱山 の効能

自分が住んでいる町の価値を再認識した。

●鉱山に住居を構える地域住民として、そして幅広い活動を展開する市民活動家である大村さんにお話を伺えればと思います。まず、鉱山町にネイチャーセンターが出来ると聞いたとき、どう思いましたか？

大村：ええ、ほんとに良いことだと思いましたよ。新しい人たちが来て新しいことをやるって、鉱山にとってはそれだけでも、それは良いことだなって。

●オープンして三年間経って、その間もたくさんお手伝いを頂いて、この施設がどんな施設か、だんだん分かってきたと思うのですが、ふおれすと鉱山は、どの辺りが良いですか？もしくは悪い部分ってありますか？

大村：まず、子どもがたくさん来るようになりましたよね。子どもの目線で運営されていて、学校単位でも利用しやすいでしょうし、事業も子どもや親子に目線を合わせてますよね。

●最近ようやくいい形で親子で遊んでくれている姿を目にするようになりましたね。

大村：そうですよね。ほんとによくがんばってくれていると思います。

●では、良くない部分てありますか？

大村：うーん。ないです。すごくうまくいっているなっていうか。

●ありがとうございます。僕たちとしては住んでる人たちにどう見られているかって、とても気になるんです。

大村：逆ですね、「ああ、鉱山町にはこんなものもあったんだ」とか、今まで全然気にとめていなかったもののおもしろさを教えてくれたりして、それが嬉しいというか。フクロウの死体だって、今まで「あ、フクロウ死んでるね」なんて言ってほっておいたんですよ。ドングリでもなんでもクラフトにできたり、ねえ。

●鉱山町の色々な物の価値を再認識するきっかけになったんですね。その意味では価値あったのかな。ふおれすと鉱山は市民との協働を強く進めているのですが、幅広い活動を展開する大村さんとしては、こういう施設ってどう映っているのでしょうか。

大村：そうですね。私と同世代の人たちが、新しい物を作ったじゃないですか。お互いまだ色々な活動を始めたばかりで、一緒に色々と勉強して成長できる。そういう意味で関わりやすいな。

お互いの成長にとって相乗効果がある。 そんないい関係だと思う。

●自身の活動の展開の場としても捉えていたり？

大村：はい。それはもう。色々な人が来るから自分の活動を広げていくのにはいいですよね。でもそこは持ちつ持たれつで、ここでお教室とか開かせて頂いたり、絵を飾らせて頂いたりする代わり、来て頂いた人に

た人に「ふおれすとっていいところだね」って広めてもらったり。

- そういう意味ではいい関わり合いが出来ているんだなって思いますね。

大村：お互いにすごい相乗効果があると思いますよ。

- そこが大事ですよね。お互いに成長できているか。ふ
おれすと鉱山は大村さんのお手伝いですごく得してい
るけど、大村さん自身も成長できているのかっていう
ところ。どうでしょう。

大村：それはすごくありますよ。絵だって、人に見ても
らう機会が増えるからたくさん描くし、たくさん描く
ことで腕も上がるし、絵のお教室も、ここのスペシャ
ルウィークでやらせてもらうことができましたし。

- 負担をかけているだけじゃなくて、ちゃんと成長する部分も提供できているのですね。安心しました。

大村：それが楽しいし、有意義であるからやるのであって。こちらこそありがとうございます。

- ふおれすと鉱山と大村さんが共にステップアップしていくとしたら、どんなことをやってみたいですか？

大村：定期的な絵画教室をふぉれすとでできたらいいなって思います。子どもたちに自然を材料にして自由に絵を描いてもらったりする機会を作れたらうれしいです。それはふぉれすと鉱山という場を使って、私自身も創作活動の利益になりますし。

- 市民の人たちのやりたいことをこちらでサポートして実現できるようになったとしたら、それは僕らにとっても大きな前進になります。

大村：ここができるときからずっとやりたいって思って

たんですよ。

- なんだ。もっと早く言ってくれればよかったのに（笑）。でも、そう言える空気が出来てきたっていうことですね。

大村：そうですよ！

今までいい。
個性を持ち続けること。それが大事。

- 色んな市民活動の方とつながりがあると思うんですが、大村さんも含めて、ふれすとがどういう形だったら活動しやすいと思いますか？

大村：んー。意外と今のままの個性で行ってくれた方がいいのかもしれませんよ。他の公共施設とちがって、ふれあいとだからできるとか、ふれあいと行きたいと思うる。そんな施設でいることが大切だと思います。

- なるほど。最後になりますが、最初のイメージと今のイメージでは変わったなと思う部分はありますか？

大村：まだまだ色々な新しいことができそうなイメージがありますね。もっとどんどん色々な活動をしていくてほしいな。

- まだまだできるってことですね。これからもお手伝いをよろしくおねがいします。

大村：いえいえ、こちらこそ！



インタビュー 大村朋子さん

鉱山町に在住する画家のたまご。既に各地で展覧会を開くほか、和太鼓演奏、ミュージカルなど、鉱山町を拠点に多彩な活動を行なっている。道新のコラム「朝の食卓」を連載中。

鉛山近況

鉱山案 小川邦夫的 内

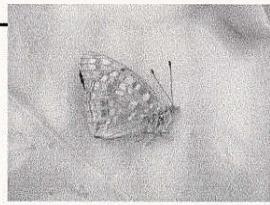
先日の台風一八号で鉱山の森も各所で木々が倒れ、林道がふさがれました。根こそぎ倒れた樹木をみて、改めて自然の力に驚嘆しました。この台風の塩害で海辺に近い森は葉が枯れていますが、鉱山町の紅葉は、今、見頃を迎えていました。また、ふれすと鉱山入口の栗の木が今年はたわわに実をつけました。気候がよかつたため山ぶどうやコクワなど山の幸

オープンから28ヶ月の活動報告

●ふれすと鉱山の主催事業

指導者ステップアップ講習②—昆虫を学ぶ・昆虫に学ぶ— 6/19~20

知られる昆虫の世界、採集法、標本作りまでを講師の村井さんにじっくり教えてもらいました。昆虫をこんなにじっくり見たのは初めて！



川・湖のあそびの安全講習会 7/19

水辺での活動に興味のある指導者向けに安全講習会を行いました。講義で知識を身につけた後、実際に水に入り、その危険性、対処法を学びました。



ジュニアチャレンジキャンプ 8/4~6

「海から山のてっぺんまで歩きとおしてやる！」と、幌別川河口からカムイヌプリ山頂までを全員が登りました。高低差750m分の手作り750個ギョウザも腹いっぱい食べました。

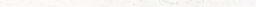


市民協働調査：猛きん渡り調査 9/23

渡り鳥が渡りを始める季節、観察には絶好のカムイヌプリに登り、猛きん類の調査を実施しました。調査結果は展示されますので是非見に来てくださいね。

子ども自然教室①夕力の渡りを観察しよう 9/26

青空の下カムイヌプリ頂上でみたものは？鳥博士、小林さんに渡りの秘密を伝授してもらいながら、そのかっこ良さにのめり込み、鳥を探すのに夢中でした。



●モモンガくらぶの主催事業

清流ジャブジャブ 7/24

ザイルを使ったり、泳いだりと全員すぶぬれの沢登り。最後に沢で遊んで待っていた子どもたちと再会し、ソーメン食べてまた遊びました。



クラフト教室&お魚物語 8/14,15

夏のスペシャルウィークでのひとこま。大好評のミニミニクラフト。初心者と大人向けに分け実施しました。材料を森から探し出して作ったクラフトは一つだけの宝物。そして魚の達人と一緒になって魚を捕まえる活動も。その姿をよく観察して素敵なんだなとつけました。



KoNG集中講義（動物・植物編） 8/29 9/17,18

動物と植物についての講義を受け、実際に外へ出て調査の様子や観察を楽しみながら、自らがガイドすることを意識しながらの実習。何事にも興味津々の受講生の皆さん、着実に力をつけています！



石焼き～石には不思議なパワーがある～ 9/11

地層やいろんな石を観察したり、探したりした後は3種類の石の板でチャンチャン焼きをして味くらべをしました。どの石がおいしかったかな？



●ふれすと鉱山とモモンガくらぶの共催事業

コーナンわんぱく基地づくり 6/15、7/25、8/14,15

子どもたちに与えられた条件は「廃材やそこらに生えているものを利用して基地を作り、最後にはそこで1泊する」ということ。3回シリーズで行われました。自力で作った小屋での1泊はドキドキだったことでしょう。



ボランティアの
つぶやきコーナー

コレが熱い！！

モモンガくらぶの女性陣の心をしっかり捉えて離さないのが「草木染め！」その魅力はどんなところにあるのでしょうか。

野にタンポポの花が咲き始めたころ、ふれすと鉱山でクマザサ茶をご馳走になっていました。その時、窓辺に飾られた黄色いハンカチが心と目にとまった時から、私の草木染めの第一歩がはじまったようです。ちょうどGWに「草木染めに挑戦！」が行なわれ、さっそく参加してみました。輪ゴムで巻いたり、糸で巻いたりして模様を入れた布を、クマザサを煮出した液に入れ、最後に明礬で媒染すると、私の好きなレモンイエローの色が、素敵な模様とともに現れたのです。確か、草を煮ただけなのに？それから、庭に生えているミントは何色、紫式部は紫かしらと思いながら、試してみたり。散歩の時にも草花が気になり、少々野から頂いてきては、今度は何色に染まるか、楽しみで、楽しくて。ついで、ストールを20本も作ってしまいました。夏に出会った色は、アカソでした。これが、川又温泉を媒染に使うと、ロゼワイン色に染まりました。でも、媒染液を他の温泉に変えると黒っぽく出たり、明礬に変えるとオレンジ色になったりで、草木と媒染の組み合わせでもいろいろ変化が出るようです。「不思議、面白い！」で、とうとう、「草木染め研究所」を作ってしまいました。みなさんも、ぜひ「草木染め研究所」へお出かけください。怠け者の私も、楽しさのあまり、自分の背丈くらいの草木染めの壁掛けを作ってしまいました。自然が大きな鉱山で、きっと、あなた色の素敵な作品ができると思います。（モモンガくらぶ・成田富美子）



使える？ふぉれすと鉱山 小ネタ集⑦

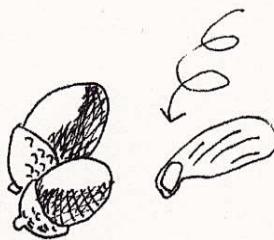
ふぉれすと鉱山のプログラムは、小ネタ（アクティビティ）の連なり。
ここでは使えるアクティビティを特別にご紹介。

いろいろひるつてみよう

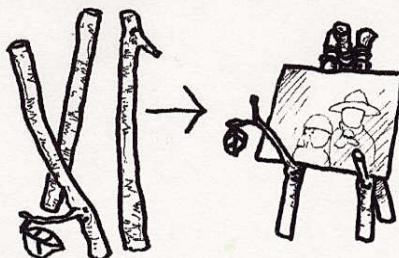
秋は、夏や冬の遊びに比べると、どうしても地味な遊びしかできないような気がします。でも、ふぉれすと鉱山のスタッフは、秋が一番好きです。秋の森にはいろんなものが落ちていて、とても楽しいのです。そこで今回は、秋の森からいろんな「モノを拾う」という活動をいくつか紹介します。

タネを拾おう

今年は暑かったので、とくにいろんなタネが落ちています。静かな森を歩いていると、「ボサッ」なんていう聞きなれない音がするので振り返ってみると、それはどんぐりが葉の上に落ちた音でした。そんなどんぐりをクラフトの材料にするには、一回ナベで煮ると良いでしょう（完全に乾くのに、3ヶ月ぐらいかかります）。どんぐりの中にいる虫を殺すのです。その残った煮汁は、草木染めに使えます。バナナなどを染めると、とても味のあるものに染め上がります。どんぐり以外にも、タネはたくさんあります。カエデのタネにはプロペラがついていることは皆さんもうご存知かと思いますが、それをうんと高いところから投げたことはありますか？ふぉれすと鉱山の近くには、深い谷に「鉱山橋」という橋がかかっています。その上からカエデのタネを投げると、ものすごい勢いでまわって落ちていきます。そんな遊びに快感を感じるのは、ぼくだけでしょうか。



木の枝を拾おう



今年は暑いだけでなく、台風もたくさんやってきました。そのため、鉱山町でもたくさん木が折れたのですが、せっかくなので少しだけ木の枝をもらってきます。木の枝というのは、実にぐにゃぐにゃとよく曲がっておりまして、扱いにくいなあという感じもしますが、実はその曲がり具合が、とてもよい「味」になるわけです。剪定ばさみを持って、森に出かけます。図のような小枝を3本集めれば、それだけでとてもかわいい「写真立て」を作ることができます。タコ糸やアサヒモを使って、「三脚縛り」という方法で縛ればできます。お気に入りの写真だけではなく、絵葉書や絵手紙などをのせて、玄関先に飾るだけで、すいぶんと雰囲気が良くなりますよ。

フンを拾おう

果たしてこのネタを載せてよいものなのか、すいぶん考えましたが…。そうです。森の中に落ちている野生動物のフンを、勇気を出して拾ってみましょう。キツネやイタチのフンは、じつはけっこ見えやすいところに落ちているものです。水の入った紙コップの中にフンをいれ、割り箸とか木の枝でフンをほぐします。ほどよくほぐれたものをザルにあげて、ザルに残ったものを観察します。ここまでできたあなただけに、野生動物の生活の様子をリアルに知ることのできる特権が与えられます…。これはもう、コネタというより大ネタの部類に入ってしまいますが、生き物の本当の姿を知るということは、ここまで気合のはいった活動に挑戦する、ということかも知れませんね。

終わったあとは念入りなうがい手洗いを忘れずに。



これらのアクティビティは、前号に掲載した「目をつけよう」とセットにして展開すると、より効果的に進めることができます。「拾う」ということは、なんだかんだいってとても面白い遊びです。また、小さな子どもから大人までが、同じレベルで楽しむことができる活動もあります。さあ、みんなビニール袋を持って外に出かけましょう！

(上田 Program D)

たつあんのドロノキ日記アナログ版 森の楽しみ方

②森のみのりの宝箱

秋深まりつつあるこの季節、紅葉を眺めながら森を歩くのはトテモ気持ちのいいものです。今年は例年ない夏の好天のお陰か、草木の実りが良く、たわわに実をつけている光景を目にします。コクワやマタタビに手を伸ばしながら歩くと楽しさもひとしおです。しかし、時には足下に目線を移し観察してみるのも面白いです。

よくよく見るとジツは、そこかしこに面白くって不思議な草花の世界が広がっていました。メリーゴーランド(?)のようなゲンノショウコの反り返った種子。すらりと並んだ種に目線を下げて覗き込むとそこは小さな遊園地のよう。オクラのようなさやの実をつつくと、手品のように次から次へと綿毛が繰り出しふわふわ舞い始めるイケマのタネ。ツリフネソウのはじけるタネを突っつくときはいつもドキドキです。袖にくついたキンミズヒキのタネをむしりとりながら、子孫を残す植物たちの“戦略”に感心することしきり。自然のからくりをあれこれ想像しながら草木の種を拾い集めるのも面白い。お気に入りの森の宝箱ができるはず。



一言に「たね」というけれど形はさまざま。そこには生き抜くための努力が隠されています。

text & illustration 本山達朗

空を飛ぶ謎の声の正体

えんどうめぐみの 森のひみつシリーズ⑩



それは、2年前の秋のはじまりの出来事。夕暮れに森の中に佇んでいると、上空で「チチッ、チチッ」と鳴く声が聞こえました。ん?今まで聞いたことのない声…。鳥じゃないし、一体??調べても、考えても、正体がわからず…その謎の声は、謎のまま、深く心に刻まれたのでした。もしかして、夜飛ぶコウモリだったりして…?

コウモリは、超音波という人間の耳には聞こえない声を出して、その反射音を聞くことで障害物を避けたり、餌になる蛾の位置を知ることができます。つまり、私たちが目で見るのと同じように、コウモリたちは超音波を使って、耳で‘周りを見ている’のです。その超音波を人間に聞こえる音に変換する機械がバットディテクター。これががあれば、コウモリの種類もある程度絞り込めます。今年の夏、コウモリの専門家を招いて調査を行なったところ、鉱山町には、モモジロコウモリ、コキクガシラコウモリなどが生息していることがわかつてきました。

じゃあ、謎の声は、コウモリじゃないのでは?…ところが! ヤマコウモリなどの何種類かは、繁殖期の秋に、人間に聞こえる愛の歌を歌うというのです。そう。2年前の秋に出会った謎の声の持ち主。それは、繁殖期を迎えたヤマコウモリの、まさしく‘声’だったのです。

コウモリについては、生態を知れば知るほど奥が深く、実際にわかっていないことがまだまだ多いそうです。「キモチワルイ!」なんていう世間のイメージとは裏腹に、謎の声が響き渡る秋の夜空を見上げて、「ああ、今日も歌っているのね。」とにんまりしてしまうのです。

リレーエッセイ Roots and Shoots リトル・ヴォイス

憧れのネイチャーセンター

荒川 昌伸

平成元年、町興しのための様々な議論の中、当時はまだ環境や自然というものがマイナーで偏った話題みたいな風潮がありましたが、私は「自然と生活の調和」という市民会議の部会に参加して町興しを考えたのです。

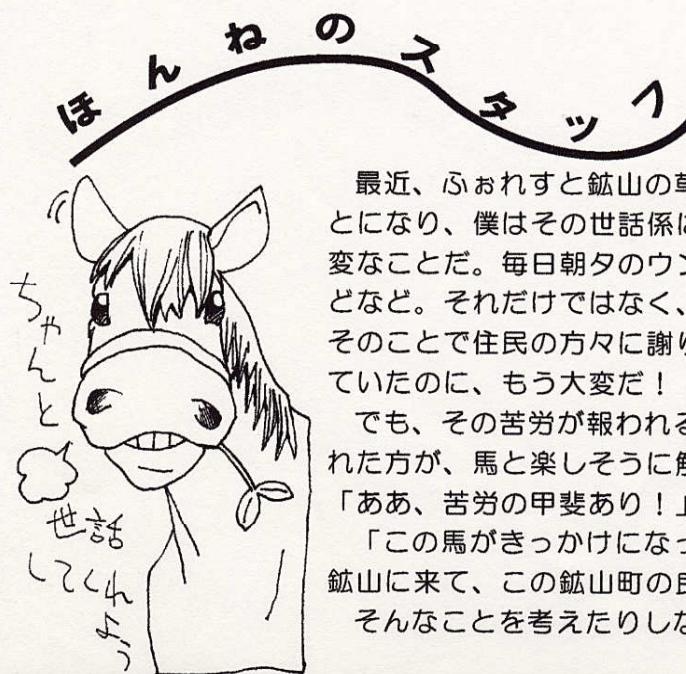
私は学生のころから自然科学に興味を持ち、世の中に役立つことをしたいと思っていました。友人と「登別探検隊」というおちゃらけの探検隊を作り、あらゆる場所を歩き回り、初めてふるさとの自然を知ったのです。そこから、自然を大切にしたいという思いが湧いたのは当然だったのかもしれません。

だからふるさとの自然のすばらしさや大切さ、奥深さを多くの人に知らせたいと考え、ネイチャーセンターを作りたいと言いました。この頃「近自然河川工法」や「ビオトープ」が生まれ、保護するだけでなく壊れた自然を再生できるという哲学に、私は共鳴しました。そんな哲学を盛り込んだネイチャーセンターにしたい！どうせお金をかけるなら人づくりにお金をかけよう。既存の施設を使い、三度の飯よりも自然が大好きな人を集め、みんなに自然の素晴らしさや環境作りの大切さ学ばせる拠点にしよう。ゆくゆくはこれほどふるさとの自然を知り、活用し、再生させてふるさとを活性化させた町はないと言われる全国のお手本にしよう。それが、私が訴えたあこがれのネイチャーセンターです。

今、自然大好きな若者が登別の鉱山町に集まり、独自のプログラムで多くの人に自然体験を提供しています。それを応援する組織としてモモンガくらぶも誕生し、現在に至ります。私のあこがれを遙かに超えたセンターでみんながうれしそうに、そして楽しそうに自然と遊ぶ姿をみてほっとしている現在です。



「いきいきひととまち市民会議」の当初からのメンバーで、鉱山のネイチャーセンターを提案した一人。地質の専門家で、水道業を営むかたわら、ふおれすと鉱山の事業で地質の講師をつとめるなど、活動に力を貸している。モモくら会員。



最近、ふおれすと鉱山の草刈作業の担い手として近所から馬を借りることになり、僕はその世話係になった。生き物を飼うというのは、本当に大変なことだ。毎日朝夕のウンチ集めにブラッシング、引き馬、餌の世話などなど。それだけではなく、僕の不注意によって“脱出”をさせてしまい、そのことで住民の方々に謝りに行ったりと、今までの日常業務でも苦労していたのに、もう大変だ！

でも、その苦労が報われる瞬間がある。それは、ふらっと遊びに来てくれた方が、馬と楽しそうに触れ合っているのを見た時。そんなときには、「ああ、苦労の甲斐あり！」とうれしくなる。

「この馬がきっかけになって、もっと気軽にたくさん的人がふおれすと鉱山に来て、この鉱山町の良さを味わってもらえたならなあ…」

そんなことを考えたりしながら、馬の世話を続けています。（N）

EVENT INFORMATION

ふあれすと鉱山の事業

イベントチェック

11/21 (日)

子ども自然教室③

「モモンガを観察しに行こう」

今年もモモンガたちは冬越しの準備にとりかかった。これから冬を越すこれらの生活を見に行こう。

12/6 (日)

モモくら協働事業

「晩秋の動物たち」(予定)

冬支度の動物達に会いに行きます。ガイドは鉱山ネイチャーガイドKoNGのみなさん。

モモくら協働

コーナン遊び塾②

ソリづくりに挑戦

今日はシリーズでソリを作るぞ!
最後は自分のソリがどれだけ早いかを決定する「山神社カップ」に挑戦だ!

12/23 (木)

1/23 (日)

2/6 (日)

一回、二回目はおじさんたちとソリ作り、最後は山神社カップでソリの腕を競います。

イベントのお問い合わせ・お申込みは「ふあれすと鉱山」
TEL.0143-85-2569 FAX.0143-81-5808

まで、お気軽にどうぞ。

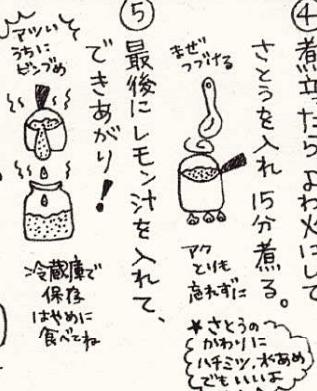
。。身近な野の草花を食卓に。。。

わいわいソラシピ



今年は、お天気に恵まれ、コクワが豊作!
森のめぐみに感謝して、少しだけおすそ分け
してもらひ、手づくりジャムに挑戦します。

手づくりコクワジャム



【用意するもの】

コクワ	200g
ザル	300g
ナミ	500g

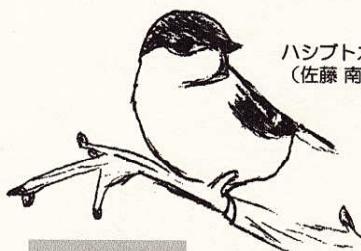
ふあれすと鉱山ご利用のご案内

開館・9:00~17:30

入館料・無料

休館日・毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日が休館となります)

- ・工作室・図書室はご自由に使っていただけます。そのほかに双眼鏡、マウンテンバイク、調理台などをご利用いただけます。



ハシブトガラ
(佐藤 南津子)

EDITOR'S LOUNGE

いつの間にかまた木の葉が舞う季節になった。多くの人は夏や紅葉の賑やかな季節が終わってしまうことにため息をつくのだけど、僕はこの季節が楽しみでならない。それは、動物達が冬越しの準備で騒がしくなる季節だからだ。もっと知りたいことがたくさんある。自然は面白い。そんな気持ちに回帰させてくれる季節なのだ。

おくづけ

登別市ネイチャーセンター通信誌「鉱山録」 Vol.10

発行: 2004年10月

発行所: 〒059-0021 北海道登別市鉱山町8-3

電話番号: 0143-85-2569 FAX: 0143-81-5808

E-Mail: kouzan@pluto.plala.or.jp

URL: www.city.noboribetsu.hokkaido.jp/forest/index.htm